

男と女 —違いはゼロ歳から—

子供が生まれると、ゼロ歳からの成長を学ぶことができます。一方で、子供の将来に対する責任が生まれ、子供の教育に集中しなければなりません。

孫が生まれると、やはりゼロ歳からの成長を見ることが出来ます。でも、親として子供を育てる時とは違います。一度、子供の成長を見た経験がありますし、孫の教育に対する責任がありません。そのため、**孫に対しては、客観的に、その成長を見ることができるようになります。**

我が家には、男の孫と女の孫が、ひとりずついます。孫と接していると、ふたりの相違に驚きます。同じ両親から、性格が大きく異なる兄妹が生まれてきました。

性格の違いもそうですが、「**男と女の違い**」に驚きます。男と女では、ゼロ歳から、行動が大きく異なっているのです。ゼロ歳からですから、完全に「**先天的**」な違いになります。

男の子は、「無防備」です。周囲のこととは無関係に自分のしたいことに集中します。集中するがゆえに、防御が甘く（無防備）、他人から注意されることが多くなります。でも、やりたいことをやってはいけない状況になると、その理由を理解し、素直に従います。

女の子は、「用心深い」と思います。自分を取り巻く人間をじっと観察し、どのように振る舞えば自分に不利にならないかを考えて行動します。用心深くミスが少なく、粗相をすることもあまりありません。一方で、自分の要求が通らないと、泣いて欲求を通そうとします。

興味の対象も、大きく異なります。

男の子は、「動くもの」が大好きです。横浜港にある風力発電をみて「クルクル」という言葉を覚え、働く車（ジューキーズ）に夢中になり、プラレールを全部集めました。特急電車、飛行機なども大好きで、名前や形を詳細に覚えました。

女の子は、「身の回りのもの」が大好きです。靴、靴下、りぼん、ドレスが大好き。アクセサリなどのキラキラしたものも好きです。バッグや財布などに対しても眼が輝きます。プレゼントすると大事に使っていました。そして「かわいい」という言葉をひんぱんに使います。

「男脳」と「女脳」

そんなことを感じている時に、黒川伊保子さんの本に出会いました。『女の機嫌の直し方』（インターナショナル新書）と『妻のトリセツ』（講談社+α新書）です。「**男脳**」と「**女脳**」の違いが、くっきりと説明されています。

『女の機嫌の直し方』（インターナショナル新書）には、**男の子は、「動くもの」**が大好きで、**女の子は、「身の回りのもの」「キラキラしたもの」**が好きということが書かれてありました。それが何故かということも。

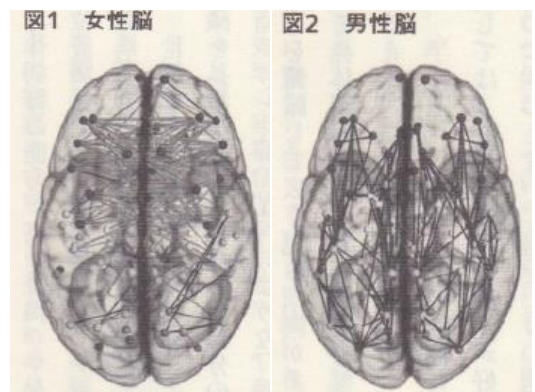
右の写真が、その説明のひとつです。

写真の中の線は、脳の各部が連携して活動していることを示しています。

「**女脳**」は、「左右連携信号」を頻繁に使っているのに対し、「**男脳**」は、「脳の縦方向の連携信号」を多く使っていることがわかります。

「**女脳**」は、右脳（感じる領域）と左脳（潜在意識と直結して言葉を紡ぐ領域）の連携が強く、「**論理的に説明できない複雑系の演算**」が得意です。そのため、ヒョウ柄や花柄などの複雑な模様が好きで、キラキラも好きです。そして、比較的近くにあるものの表面をなめるようにみて、針の先ほどの変化も見逃さないことを得意とします。

「**男脳**」は、脳の前部から後部にかけて縦に深く連携します。**ものごとを俯瞰して広く見る傾向**にあり、ものの位置関係や構造をすばやくつかむことが得意です。かたちや構造が目で見えてわかるものが、やや離れた位置にあると、男の子はがぜん興奮すると書かれています。風力発電や働く車は、「かたちや構造が目で見えてわかるものが、やや離れた位置にある」に相当します。**男脳と女脳は、先天的に異なる**のですね。



黒川伊保子「女の機嫌の直し方」インターナショナル新書,pp99

「男の IQ」と「女の IQ」

橋玲さんの本『もっと言うてはいけない』（新潮新書）に、興味深いデータが載っていました。右の図の男性と女性のIQの分布です。

男性のほうが、IQのバラツキが大きく、分布が広がっています。それに対し、女性のIQは平均値に集中する傾向にあります。

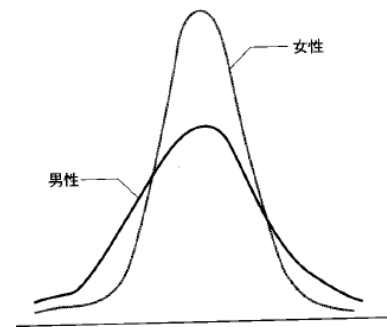
男性には、IQが飛び切り高い人がいますが、逆にとても低い人もいます。女性の方は、飛び切り高いIQの人は少ないのですが、飛び切り低い人もいません。

男性は標準偏差が大きいので、ノーベル賞の受賞者が多いのですが、「極端に知能が低い」人も多く、学習障害や自閉症、連続殺人や猟奇殺人など極端な犯罪を行うのも、ほとんどが男であるというのが、この図から説明できる、と橋さんは言っています。

一方で、女性は、IQで平均付近の人数が多く、言語的知能が高いことと相俟って、「文系」への女性進出が際立っていると述べられています。「いまでは大学の人文・社会科学系の学部は、文学や心理学だけでなく、社会学や法学、経済学などでも女子学生が多数派になりつつある」と書かれてありました。このIQ分布から想定されることです。

IQ分布の相違も先天的なものです。男と女は、こんなところでも違うんですね。面白いです。

図表5 男性と女性のIQ値の分布



橋玲「もっと言うてはいけない」新潮新書
pp86

(M.S.)